

平成22年度日本農学会シンポジウム

「農林水産業を支える生物多様性の評価と課題」

- 日 時：平成22年10月9日（土）午前10時より（午前9時30分開場）
- 会 場：東京大学弥生講堂（地下鉄 南北線「東大前」駅下車徒歩1分、千代田線「根津」駅下車徒歩8分）
- 主な対象：学生・院生、若手研究者（一般公開）
- 参加費：無料
- 講演要旨：別売
- 内 容：

本年2010年は国連の定める国際生物多様性年であり、また、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）の日本での開催が予定されている。農林水産業は、生物に備わる生産力を利用することで人類がその恩恵を享受しつづけようとする産業であり、その根幹を支える生物資源の多様性の確保は、安定的で持続的な農林水産業の展開にとって最も基礎的かつ重要な課題である。

本シンポジウムは、農林水産業を支える生物多様性の現状を評価し、将来に向けた課題を整理することを目的とする。まず、農林水産業と生物多様性の関わりについて考え方を整理した後、国内外の在来作物品種や園芸品種、近縁野生種の遺伝的多様性が失われつつある現状を概観する。次いで、農林水産業を支える生物多様性の利用と評価に関する現状と課題を、作物生産、森林資源、水産資源、農耕地土壌のそれぞれについて整理する。さらに、多様な生物の生息する農村空間の保全と再生というマクロな視点から、生物生息空間の再生、農村ランドスケープ、生態系サービスの経済的評価について検討する。

■講演題目：

第1部 農林水産業における生物多様性

- 10:10 生物多様性条約と SATOYAMA イニシアティブ（東京大学 武内和彦）
- 10:45 農山漁村の生物多様性の診断と管理（愛媛大学 日鷹一雅）

第2部 農林水産業を支える生物多様性の利用と評価

- 11:20 作物生産における生物多様性の利用（北海道農業研究センター 辻博之）
- 13:00 森林の遺伝的多様性保全と森林管理（森林総合研究所 津村義彦）
- 13:35 栽培漁業の遺伝的影響評価と多様性管理（東京海洋大学 北田 修一）
- 14:10 農耕地土壌における微生物多様性の評価手法とその利用（東京農工大学 豊田剛己）

第3部 生きものにぎわう農村空間の保全と再生

- 15:00 水田地帯の魚類生態系保全と地域の活性化（秋田県立大学 端憲二）
- 15:35 複合生態系としての農村ランドスケープと生物多様性（農業環境技術研究所 山本勝利）
- 16:10 生物多様性と生態系サービスの経済的評価（長崎大学 吉田謙太郎）
- 16:55~ 総合討論

2010年4月5日 出版

『シリーズ21世紀の農学』

「世界の食料・日本の食料」

日本農学会編

出版：養賢堂

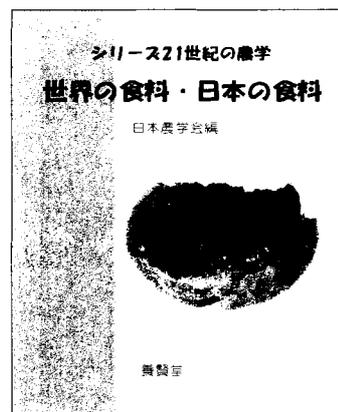
世界の人口は、2050年には90億人を超えるまでに増加することが予測されています。それにもない世界の食料総受給量は今後も増加傾向となることが確実であり、食料の安定供給と安全確保は人類生存の最重要課題となっています。

また今日に食料問題は、こうした人工増加のみならず、食料価格の高騰、グローバル化の進展、新興国の経済発展、南北格差の拡大、食生活の高度化、地球規模の気象異常等といった食を取り巻く諸条件の変化によって、より複雑化・深刻化しています。

これまでも、そしてこれからも食料問題の解決は、農学に課された最大の使命でもあることはいまでもありません。

平成21年10月10日開催されたシンポジウムでは、農産物、畜産物、水産物における食料需要の現状と展望を明らかにし、食料の安定供給と安全確保を目的とした技術開発について紹介し、今後の農学の果たすべき役割と課題について議論を深めることを目的としました。

本書は、その成果の概要を詳細にわかりやすくまとめ、充実した内容の1冊となっています。研究者はもとより、学生や一般の方々など食料の安定供給や安全に関心のある方にもお奨めします。



◆体裁 A5判 177ページ

◆定価 2,000円(税込)

■主な収載項目■

- | | |
|----------------------------------|-----------------|
| 第1章 世界の食糧事情と日本農業の進路 | (日本大学 大賀圭治) |
| 第2章 世界の畜産事情と日本畜産の可能性 | (九州大学 福田 晋) |
| 第3章 世界の水産事情と日本水産業の課題 | (近畿大学 小野征一郎) |
| 第4章 食料危機を克服する作物育種 | (作物研究所 岩永 勝) |
| 第5章 畜産物の安定供給をめざした技術開発について | (畜産草地研究所 寺田文典) |
| 第6章 水産物の安定供給を目的とした技術開発 | (東京海洋大学 吉崎悟朗) |
| 第7章 持続性・循環を目指した農業生産技術・システムの総合的評価 | (酪農学園大学 干場信司) |
| 第8章 食料の安定供給と安全確保をめざす農薬利用技術 | (日本植物防疫協会 上路雅子) |
| 第9章 動物感染症の制御と畜産物の安全 | (東京大学 関崎 勉) |

日本農学会

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

TEL03-5842-2287

FAX

03-5842-2237

URL: www.ajass.jp mail: office@ajass.jp